

株式会社ゆうき八百屋設立にあたりご挨拶

錦秋の候、皆様方におかれましては益々ご清栄の事と心よりお慶び申し上げます。

扱てこの度、私どもでは新たに有機農産物、及びそれ等を原材料とする加工食品の流通の事業を起ち上げるべく決意し、ここに皆様方にご案内申し上げます。

思い返せば遙か三十数年前、私達の健康な生活に欠かせない食べ物が、農薬、化学肥料と食品添加物によって際限のない品質劣化のする中で、危機感を抱く先進的な生産者、製造者の方々と都市の消費者が共に手を結び、市場を介在しない生産地・消費地の産直方式による有機農産物の流通が始まりました。

またそれ以前より自然農法を提唱する宗教団体によって信者さんの間でその流通が、地域的、限定的な状況の中で行われておりました。

時代は1970年代後半、大気、水質、土壌等の環境の絶えざる悪化の中で、自然志向をもった青年達によって都市での有機農産物の流通を目指し、はからずもJACと大地を守る会がほぼ同時期に起ち上がったのでした。

各々の事業の起ち上げ方の特徴は当事者の価値観を反映したのか、JACグループは独立自営のメンバーによる中古トラックを改造しての引き売り販売（数年後には車から店舗販売へ移行して行くのですが・・・）、一方の大地を守る会のグループは消費者の組織化による会員制の共同購入方式という形態をとり、この時代になってようやく都市において有機農産物が、不特定多数の消費者の手に届くようになったのでした。

今日、消費者の食への関心の高まり、健康志向、食のグルメ化で、有機農産物とその加工食品は、高級スーパー、量販店、ネット通販、個人宅配、自然食品店と、その販売チャンネルも多様化しマーケットも拡大、その競争も激しさを増しております。

残念なことに、有機流通の先鞭をつけその拡大普及のために尽力した流通の JAC が消滅しました。また当時より小売りで頑張ってきた各地域に根付く自然食品店のオーナーの皆さんも、この激しい競争の中で経営的に苦闘を強いられていることと思います。

有機である事、有機であろうとする事の販売の基本は手渡しです。時代の傾向の中でモノの流れがいかように変わろうと、古来より人と人との対話を通して流れて行くのが普遍であると確信します。心の通う作り手の品々を自信をもってお客様方一人一人に手渡して行くことに、自らの生き方、価値観が投影できるのではないかと確信しているからです。

地域に根付く、地域に支えられる“元気なゆうき八百屋”の創出こそ私達の願いです。志半ばで斃れた JAC の意志を引き継ぎ、苦闘する小売店経営者の皆さんにモノを提供するだけでなく、店造りに多面的にご支援できればと私達は願っております。

株式会社ゆうき八百屋は、そうした流通を目指して頑張ってまいりますので、叱咤激励の程、よろしくお願い申し上げます。



平成 16 年 10 月 吉日

株式会社ゆうき八百屋

発起人代表 稲津 恒己

(グルッペ代表)